

かんしょ に使用可能な農薬一覧表

銚田市農業振興センター

【令和6年11月27日現在】

<殺菌剤>

薬剤名	対象病虫害						希釈倍数 使用量 (散布液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法等	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	黒 斑 病	つ る 割 病	う ど ん こ 病	斑 点 病	基 腐 病	そ の 他 病 害 虫							
ベンレート水和剤		●					500～1000倍 (-)	植付前	1回	20～30分間苗浸漬	ベノミル ^{#1}	4回以内(但し、植付時までの処理は1回以内、植付後は3回以内)	1
		●					500～1000倍 (-)	植付前	1回	20～30分間苗基部浸漬			
					●		500～1000倍 (-)	植付前	1回	30分間苗浸漬			
		●					種いも重の0.4%	植付前	1回	種いも粉衣			
			●				500～1000倍 (20～40ml/株)	挿苗時	1回	株元灌注			
				●			1000倍 (100～300L/10a)	収穫7日前まで	3回 以内	散布			
ベンレートT水和剤20	●						20倍 (-)	植付前	1回	1分間苗基部浸漬	チラウム	1回	M03
	●						200倍 (-)	植付前	1回	30分間苗基部浸漬	ベノミル ^{#1}	4回以内(但し、植付時までの処理は1回以内、植付後は3回以内)	1
		●			●		200倍 (-)	植付前	1回	30分間苗浸漬			
トップジンM水和剤	●						200～500倍 (-)	植付前	1回	20～30分間種いも又は苗 茎部浸漬	チオファネートメチル	1回	1
					●		200～500倍 (-)	貯蔵前～伏せ込み前	1回	30分間採苗用種いも浸漬			

#1「ベンレート水和剤」と「ベンレートT水和剤20」は、同一成分「ベノミル」を含むため、併用はできません。

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※かんしょに使用できる農薬は、「野菜類」、「いも類」、「かんしょ」に登録のある農薬です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺菌剤> かんしょ

【令和6年11月27日現在】

薬剤名	対象病虫害						希釈倍数 使用量 (散布液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法等	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分 類 コード
	黒 斑 病	つ る 割 病	う ど ん こ 病	斑 点 病	基 腐 病	そ の 他 病 害 虫							
アミスター20フロアブル					●		2000倍 (100~300L/10a)	収穫14日前まで	3回 以内	散布	アゾキシストロビン	3回以内	11
					●		12~32倍 (1.6L/10a)	収穫14日前まで	3回 以内	無人航空機による散布			
アカリタッチ乳剤						ハダニ類	2000~3000倍 (100~400L/10a)	収穫前日まで	-	散布	プロピレングリコールモノ脂肪酸エステル	- <いも類該当> (殺虫殺菌剤)	-
			●				2000倍 (100~400L/10a)	収穫前日まで	-	散布			
硫黄粉剤50			●			ハダニ類	3kg/10a	-	-	散布	硫黄	- <いも類該当> (殺虫殺菌剤)	F:MO2 I:UN
ドイツボルドーA				●			500倍 (100~300L/10a)	-	-	散布	塩基性塩化銅	-	MO1
Zボルドー				●	●		500倍 (100~300L/10a)	-	-	散布	塩基性硫酸銅	-	MO1
ジーファイン水和剤					●		1000倍 (200~300L/10a)	収穫前日まで	-	散布	炭酸水素ナトリウム	-	NC
											無水硫酸銅	-	MO1
トリフミン水和剤					●		16倍 (0.8~1.6L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	無人航空機による散布	トリフルミゾール	3回以内(但し、植付前の処理は1回以内、植付後は2回以内)	3
					●		2000~3000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布			
		●			●		500倍 (-)	植付前	1回	17時間苗基部浸漬			
フロンサイドSC					●		500ml/10a (50~200L/10a)	植付前	1回	全面散布土壌混和	フルアジナム	3回以内(但し、植付前は1回以内、植付後は2回以内)	29
							500ml/10a (50~200L/10a)	植付前	1回	全面土壌散布			
							1000倍 (100~300L/10a)	収穫30日前まで	2回 以内	散布			

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※かんしょに使用できる農薬は、「野菜類」、「いも類」、「かんしょ」に登録のある農薬です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

かんしょ に使用可能な農薬一覧表

銚田市農業振興センター

【令和6年11月27日現在】

<殺虫剤>

薬剤名	対象病虫害									希釈倍数 使用量 (散布液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	コ ガ ネ ム シ 類	幼 虫 コ ガ ネ ム シ 類	ブ ド ウ ガ ネ ブ イ	ハ リ ガ ネ ム シ 類	チ ユ ウ ブ セ ン	イ モ ゾ ウ ム シ	ウ ア リ モ ド キ ゾ	チ ネ グ ウ サ レ セ ン	その他 病虫害							
ネマトリンエース粒剤					●					15~20kg/10a	植付前	1回	作条土壌混和	ホスチアゼート	2回以内(但し、苗床は1回以内、本圃は1回以内)	1B
					●					10~30kg/10a	苗床植付前	1回	全面土壌混和			
					●					10~30kg/10a	植付前	1回	全面土壌混和			
								●		20~30kg/10a	植付前	1回	全面土壌混和			
ビーラム粒剤/ ネマクリーン粒剤					●					20kg/10a	植付前	1回	全面土壌混和	フルオピラム ^{#2}	1回	(FRAC) 7
					●					10~20kg/10a	植付前	1回	全面土壌混和			
ビーラムプラス粒剤	●				●			●		20kg/10a	植付前	1回	全面土壌混和	イミダクロプリド ^{#3}	3回以内(但し、植付前の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)	4A
														フルオピラム ^{#2}	1回	(FRAC) 7
アドマイヤーイーモ粒剤	●									8~12kg/10a	植付前	1回	作条土壌混和	イミダクロプリド ^{#3}	3回以内(但し、植付前の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)	4A
										8~12kg/10a	植付前	1回	全面土壌混和			
アドマイヤー顆粒水和剤									アブラムシ類	10000倍 (100~300L/10a)	収穫7日前まで	2回 以内	散布	イミダクロプリド ^{#3}	3回以内(但し、植付前の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)	4A
プリンスベイト	●			●		●	●			6kg/10a	植付時	1回	植溝処理土壌混和	フィプロニル	1回	2B
	●									6kg/10a	植付前	1回	全面処理土壌混和			

#2「ビーラムプラス粒剤」は、「ビーラム粒剤」「ネマクリーン粒剤」と同一成分「フルオピラム」を含むため、併用はできません。

#3「ビーラムプラス粒剤」は、「アドマイヤー1粒剤」と同一成分「イミダクロプリド」を含むため、併用はできません。

「イミダクロプリド」の総使用回数は3回以内(ただし、植付前の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)。「アドマイヤー顆粒水和剤」は、「アドマイヤー1粒剤」と「ビーラムプラス粒剤」と同一成分「イミダクロプリド」を含むため、使用回数に注意してください。

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※かんしょに使用できる農薬は、「野菜類」、「いも類」、「かんしょ」に登録のある農薬です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺虫剤> かんしょ

【令和6年11月27日現在】

薬剤名	対象病害虫									希釈倍数 使用量 (散布液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	コガ ネム シ類	幼 コガ ネム シ類	ブドウ ガ ネ ブ イ	ハリ ガ ネム シ類	ネ コ ブ セ ン	イ モ ゾ ウ ム シ	ウ リ モ ド キ ゾ	チ ユ グ ウ サ レ セ ン	その他 病害虫							
ダズバン粒剤	●			●						9kg/10a	植付時	2回 以内	全面土壌混和又は植溝 土壌混和	クロルピリホス	2回以内	1B
	●									9kg/10a	生育期 但し、収穫30日前まで	2回 以内	全面散布			
						●	●			6kg/10a	生育期 但し、収穫30日前まで	2回 以内	株元散布			
ラグビーMC粒剤					●					10~30kg/10a	植付前	1回	全面処理土壌混和	カズサホス	1回	1B
	●			●						20~30kg/10a	植付前	1回	全面処理土壌混和			
	●									9kg/10a	植付前	1回	全面処理土壌混和			
	●									9kg/10a	植付前	1回	作条処理土壌混和			
ダントツ粒剤	●								トビイロヒコウタンゾウムシ	6~9kg/10a	植付前	1回	作条処理土壌混和	クロチアニジン	3回以内(但し、植付前の処理は1回以内、 植付後は2回以内)	4A
	●									6~9kg/10a	植付前	1回	全面処理土壌混和			
									アブラムシ類	6kg/10a	育苗期	1回	株元処理			
ダイアジノンSLゾル									ナカジロシタバ	1000倍 (100~300L/10a)	収穫30日前まで	2回 以内	散布	ダイアジノン	3回以内(但し、マイクカブ® 剤の植付前の処理は1回以内、マイクカブ® 剤の散布は2回以内、 粒剤の散布は2回以内)	1B
		●								50倍 (100L/10a)	植付前	1回	全面土壌混和又は畝立 て前作条散布			
		●								25倍 (100L/10a)	植付前	1回	全面土壌混和			
フォース粒剤		●		●						9kg/10a	植付前	1回	全面土壌混和又は作条 土壌混和	テフルトリン	1回	3A
ダイアジノン粒剤5		●								4~6kg/10a	収穫30日前まで	3回 以内	作付前:全面土壌混和又は 作条土壌混和 作物生 育中:作条処理して軽く 覆土	ダイアジノン	3回以内(但し、マイクカブ® 剤の植付前の処理は1回以内、マイクカブ® 剤の散布は2回以内、 粒剤の散布は2回以内)	1B
									ケラ ネキリムシ類	4~6kg/10a	植付前	1回	全面土壌混和又は作条 土壌混和			

※参考資料の作成に当たっては、農業使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農業を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農業の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※かんしょに使用できる農薬は、「野菜類」、「いも類」、「かんしょ」に登録のある農薬です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

かんしょ に使用可能な農薬一覧表

銚田市農業振興センター

【令和6年11月27日現在】

<殺虫剤>

薬剤名	対象病虫害									希釈倍数 使用量 (散布液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数	分類 コード
	ア ブ ラ ム シ 類	イ モ コ ガ	ナ カ ジ ロ シ タ バ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	ヨ ト ウ ム シ	シ ロ イ チ モ ジ ヨ	エ ビ ガ ラ ス ズ メ	コ ナ ジ ラ ミ 類	その他 病虫害							
スミチオン乳剤	●	●							ヨツモンカメノコハムシ	1000倍 (100~300L/10a)	収穫7日前まで	5回 以内	散布	MEP	5回以内	1B
プレオフロアブル			●	●					ヒルガオハモグリガ	1000~2000倍 (100~300L/10a)	収穫7日前まで	2回 以内	散布	ピリダリル	2回以内	UN
								16倍 (0.8~1.6L/10a)		収穫7日前まで	2回 以内	無人航空機による散布				
								32倍 (1.6~3.2L/10a)		収穫7日前まで	2回 以内	無人航空機による散布				
トレボン乳剤	●		●	●						1000倍 (100~300L/10a)	収穫7日前まで	3回 以内	散布	エトフェンプロックス	3回以内	3A
アグロスリン水和剤	●		●	●						1000~2000倍 (100~300L/10a)	収穫7日前まで	5回 以内	散布	シペルメトリン	5回以内	3A
		●			●		●	●	ネギアザミウマ ハムシ類	1000倍 (100~300L/10a)	収穫7日前まで	5回 以内	散布			
ファルコンフロアブル			●	●						4000~6000倍 (100~300L/10a)	収穫3日前まで	3回 以内	散布	メトキシフェノジド	3回以内 (昆虫成長制御剤)	18
アニキ乳剤			●	●						2000~3000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	レピメクチン	3回以内	6
フェニックス顆粒水和剤			●	●						16~32倍 (0.8~1.6L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	無人航空機による散布	フルベンジアミド	2回以内	28
			●	●						2000~6000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布			
									ヒルガオハモグリガ	6000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布			

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※かんしょに使用できる農薬は、「野菜類」、「いも類」、「かんしょ」に登録のある農薬です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺虫剤> かんしょ

【令和6年11月27日現在】

薬剤名	対象病害虫								希釈倍数 使用量 (散布液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数	分類 コード	
	ア ブ ラ ム シ 類	イ モ コ ガ	ナ カ ジ ロ シ タ バ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	ヨ ト ウ ム シ	シ ロ イ チ モ ジ ヨ	エ ビ ガ ラ ス ズ メ	コ ナ ジ ラ ミ 類								その他 病害虫
アクセルフロアブル			●	●					ヨツモンカメノコハムシ	10～16倍 (0.8～1.6L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	無人航空機による散布	メタフルミゾン	3回以内	22B
			●	●					ヨツモンカメノコハムシ	1000～2000倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布			
オリオン水和剤40		●	●	●						1000倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	5回 以内	散布	アラニカルブ	5回以内	1A
アクタラ粒剤5	●									6kg/10a	育苗期	1回	株元散布	チアメトキサム	1回	4A
									コガネムシ類幼虫	6～9kg/10a	植付前	1回	作条混和			
									コガネムシ類幼虫	6～9kg/10a	植付前	1回	全面土壌混和			
マッチ乳剤			●	●						2000～3000倍 (100～300L/10a)	収穫14日前まで	2回 以内	散布	ルフェヌロン	2回以内	15
ディアナSC			●	●						2500～5000倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	スピネトラム	2回以内	5
									ヒルガオハモグリガ	2500倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布			
			●	●						32倍 (0.8L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	無人航空機による散布			
										64倍 (1.6L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	無人航空機による散布			
ベネビアOD			●	●					アリモドキゾウムシ、 ヨツモンカメノコハムシ、 ヒルガオハモグリガ、 イモゾウムシ	4000倍 (100～300L/10a)	収穫7日前まで	3回 以内	散布	シアントラニリプロール	3回以内	28
									40倍 (1～2L/10a)	収穫7日前まで	3回 以内	無人航空機による散布				
アルバリン顆粒水溶剤/ スタークル顆粒水溶剤	●									2000倍 (100～300L/10a)	収穫3日前まで	1回	散布	ジノテフラン	1回	4A
コルト顆粒水和剤	●									4000倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ピリフルキナゾン	3回以内	9B
サンマイトフロアブル								●	ハダニ類	1000～1500倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	ピリダベン	2回以内	21A

※参考資料の作成に当たっては、農業使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農業を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農業の誤った使用を行わないようにしてください。

※農業散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農業が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※かんしょに使用できる農業は、「野菜類」、「いも類」、「かんしょ」に登録のある農業です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

かんしょ 使用可能な農薬一覧表

銚田市農業振興センター
【令和6年11月27日現在】

<除草剤>

薬剤名	対象雑草	使用量・薬量 (希釈水量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法等	有効成分の種類	同左毎の使用回数	分類 コード
トレファノサイド乳剤	一年生雑草（ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く）	200～300ml/10a (100L/10a)	挿苗前 雑草発生前	1回	全面土壌散布	トリフルラリン	3回以内(但し、挿苗前は1回以内、挿苗後は2回以内)	3
	一年生雑草（ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く）	200～300ml/10a (100L/10a)	挿苗後 雑草発生前 但し、収穫60日前まで	2回 以内	全面土壌散布又は畦間土壌散布			
ゴーゴーサン乳剤	一年生雑草	200～400ml/10a (100L/10a)	挿苗10日後まで(雑草発生前)	1回	畦間土壌散布	ペンディメタリン	1回	3
ロロックス	一年生雑草	200g/10a (70～150L/10a)	種いも植付後萌芽前まで	1回	全面土壌散布	リニューロン	2回以内(但し、全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内)	5
	一年生雑草	150～200g/10a (70～150L/10a)	苗移植前まで	1回	全面土壌散布			
	一年生広葉雑草	100～200g/10a (70～150L/10a)	生育期 但し、収穫45日前まで (雑草生育期)	1回	雑草茎葉兼土壌散布(畦間処理)			
レンザー	一年生雑草	100～150g/10a (70～100L/10a)	植付後 但し、収穫30日前まで	2回 以内	全面土壌散布	レナシル	2回以内	5
ワンサイドP乳剤	一年生イネ科雑草（スズメノカタビラを除く）、シバムギ、レッドトップ	50～75ml/10a (70～100L/10a)	雑草生育期(イネ科雑草3～5葉期) 但し、収穫60日前まで	1回	雑草茎葉散布又は全面散布	フルアジホップP	1回	1
プリグロックスL	一年生雑草	600～1000ml/10a (100～150L/10a)	植付前	3回 以内	雑草茎葉散布	ジクワット	3回以内	22
	一年生雑草	600～1000ml/10a (100～150L/10a)	畦間処理:雑草生育期但し、収穫30日前まで	3回 以内	雑草茎葉散布	パラコート	3回以内	22
バスタ液剤	一年生雑草	200～500ml/10a (100～150L/10a)	収穫14日前まで(雑草生育期耕起前・挿苗前又は畦間処理)	2回 以内	雑草茎葉散布	グルホシネート	2回以内	10
タッチダウンiQ	一年生雑草	250～500ml/10a (25～100L/10a)	耕起7日以前(雑草生育期)	1回	雑草茎葉散布	グリホサートカリウム塩	2回以内	9

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※かんしょに使用できる農薬は、「野菜類」、「いも類」、「かんしょ」に登録のある農薬です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<除草剤> かんしょ

【令和6年10月2日現在】

薬剤名	対象雑草	使用量・薬量 (希釈水量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法等	有効成分の種類	同左毎の使用回数	分類 コード
ラウンドアップマックス ロード	一年生雑草	200～500mL/10a (通常散布50～100L/10a) (少量散布25～50L/10a)	耕起前又は挿苗前まで (雑草生育期)	2回 以内	雑草茎葉散布	グリホサートカリ ウム塩	2回以内	9
	一年生雑草	200～500mL/10a (通常散布50～100L/10a) (少量散布25～50L/10a)	収穫60日前まで (雑草生育期:畦間処理)	2回 以内	雑草茎葉散布			
トレファノサイド粒剤2.5	一年生雑草(ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	3～4kg/10a	挿苗前 雑草発生前	1回	全面土壌散布	トリフルラリン	3回以内(但し、挿苗前は1回以内、挿苗後は2回以内)	3
	一年生雑草(ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	3～4kg/10a	挿苗後 雑草発生前 但し、収穫60日前まで	2回 以内	全面土壌散布又は畦間土壌散布			
デュアルゴールド	一年生雑草	70～130mL/10a (70～100L/10a)	挿苗後 但し、収穫90日前まで (雑草発生前)	1回	全面土壌散布	S-メトラクロール	1回	15
	一年生雑草	70～130mL/10a (70～100L/10a)	マルチ前・挿苗前(雑草発生前)	1回	全面土壌散布			

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※かんしょに使用できる農薬は、「野菜類」、「いも類」、「かんしょ」に登録のある農薬です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

かんしょ（さつまいも等） に使用可能な農薬一覧表

銚田市農業振興センター

【令和6年11月27日現在】

<土壌消毒剤>

薬剤名	対象雑草・病害虫	希釈倍数 (散布液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分	同左毎の 総使用回数	分類 コード
クロピク80/ ドロクロール	立枯病、つる割病、紋羽病、センチュウ類、ネキリムシ類、ハリガネムシ類、一年生雑草	<床土・堆肥> 1穴当り3~6 mℓ <圃場> 1穴当り2~3mℓ	-	1回	土壌くん蒸	クロルピクリン	1回	8B
D-D/D C油剤/テロン	コガネムシ類幼虫	15~20ℓ/10a (1穴あたり1.5~2mℓ)	作付の10~15日前	1回	1) 全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の 基盤の目に切り千鳥状に深さ15~20cmに所 定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。 2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ 予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液 を注入し直ちに覆土鎮圧する。	D-D	1回	8A
	ネグサレセンチュウ	15~20ℓ/10a (1穴あたり1.5~2mℓ)						
	ネコブセンチュウ	15~30ℓ/10a (1穴あたり1.5~3mℓ)						
バスアミド微粒剤/ ガスタード微粒剤	白絹病、つる割病、紫紋羽病、ネコブ センチュウ、一年生雑草等	20~30kg/10a	植付21日前	1回	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和 する。	ダゾメット	1回	8F
	基腐病	30kg/10a						

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意を払っていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※かんしょに使用できる農薬は、「野菜類」、「いも類」、「かんしょ」に登録のある農薬です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。